

1. 計画名称

茅野市文化芸術推進計画

2. 計画全体の進捗状況及び総合評価

進捗評価	おおむね順調	説明	(R4・総括評価共通)コロナ禍における文化芸術活動も3年目を迎え、施設の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策が緩和されるなど徐々にではあるが活動の推進が図られた。これまでの工夫やオンライン活用などの取組は今後にかかしていきたい。これからも、文化芸術活動に親しみきっかけづくりや人材育成、文化財や地域資源を使つての事業、各種施設整備等により、文化芸術を絶やさぬよう支援していく必要がある。
今後の重点化施策番号	1	説明	誰もが日常的に文化芸術に接し、多様な文化芸術活動を楽しみ、表現し、創造することができるよう、活動の見直し、機会の充実、環境の整備に努めていく。また、関係団体と協力し連携を図っていく。

3. 各施策等における評価内容と改革改善

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
1	地域文化の創造と文化芸術活動の推進(1)	おおむね順調	(R4評価)市民館ではメジャーアーティストのライブを開催、公民館活動においては、3年ぶりにホールでの発表等の事業を実施、学校における巡回公演も回数を増やすことにより実施することができた。茅野市HPIに「文化芸術に関する情報」を立ち上げた。(総括評価)誰もが文化的で充実した生活を送ることができるよう、工夫による活動の推進と環境整備を進めることができた。	(R4・総括評価共通)新型コロナウイルス感染症による活動制限は緩和されていくが、コロナ禍で停滞してしまった活動を元に戻していくことが課題となっている。ロシアのウクライナ侵攻に端を発した物価上昇に伴うエネルギー価格の高騰により、市民館の経営面において不測の事態が生じている。	(R4・総括評価共通)停滞してしまった活動を元に戻していくため、社会教育関係団体の活動支援策を検討する。市民館の管理運営について精査し、見直しを図る。自主事業においては、収益につながる新しい事業などの検討も必要。
2	文化芸術活動に関わる人材の育成(2)	おおむね順調	(R4評価)劇場や美術館に関わる人を増やす事業では、対面でのワークショップや合同で集まる事業を再開。公民館活動では地区文化祭、分館事業が実施できた。(総括評価)、映像配信やオンラインの活用など新たな取り組みにも挑戦し人材育成を図ることができた。今後も活動を広げていく必要がある。	(R4・総括評価共通)新型コロナウイルス感染症による活動制限は緩和されていくが、コロナ禍で停滞してしまった活動を元に戻していくことが課題となっている。芸術家が市内で活躍できる機会や市民等と交流する機会を創出することのできる取組の検討は今後も課題である。	(R4・総括評価共通)地区事業の再開を図るとともに、分館活動支援を行っていく。次世代を担う子どもたちの創造力を育む取組が様々な場所で展開できるよう、学校、施設、指定管理者、NPO等と協力・連携し実施していく。
3	文化の継承による魅力ある地域づくりの推進(3)	おおむね順調	(R4評価)文化遺産の価値を損なうことなく、適正に保存、保全された。美術館では地域にゆかりのある作品15点を受入。語り伝承グループによる「語り伝承第4集」が発刊され、風習や生活、体験の貴重な記録が残された。(総括評価)郷土文化を適正に収集、保存、保全など行われ、特色ある展示等の開催が可能となっている。	(R4・総括評価共通)文化遺産の維持管理費の確保、次世代への継承、魅力ある地域づくりのための活用が課題である。美術品寄附等検討委員会では市の収集方針による適正な収集と活用ができるよう進める必要がある。	(R4・総括評価共通)所有者の保護意識を高める取組と文化財/パトロールによる保護に資する情報提供を継続する。公民館事業と連携した学習の場を設け、住民に文化財の価値や魅力を知ってもらう。郷土にゆかりのある作品を広く活用し、市のアピールにつなげていく方策など美術品寄附等検討委員、指定管理者との連携の中で検討、推進していく。また、美術品寄附等検討委員会で適正な収集と活用ができるよう内規の検討を行う。
4	文化芸術を活用したまちづくり(4)	おおむね順調	(R4評価)縄文プロジェクト見直しに伴い縄文まつりが中止となったが、考古館事業や日本遺産の展示を充実し縄文をいかしたまちづくりを広く発信。地域資源を活用した旅行商品は、体験プログラム3件、ツアー3件を開発。(総括評価)学術的な縄文関連事業を核とする方向性になったが、今後も縄文をいかしたまちづくりを進める。	(R4・総括評価共通)縄文プロジェクトの位置づけや方向性について、アフターコロナを見据え原点に立ち返り整理する必要がある。	(R4・総括評価共通)学術的な縄文関連事業を核に、産業・観光等の分野と連携した取組を継続実施することで、縄文をいかしたまちづくりを進めたい。
5					

※5つ以上の場合は裏面へ

4. 関連市民団体等の主な意見及び対応のポイント

	主な意見	市の考えや対応など
関連市民団体等名称	・社会情勢の変化や文化芸術に関しても多様性が求められる中、市がリードする時代でなくなってきた。人材育成という部分では自分たち団体も新たな形を取り入れ頑張っている。	・委員会の会議内容を踏まえながら、それぞれの立場でできることを一歩でも進めていきたい。
文化芸術推進委員会	・縄文プロジェクトの解数は残念であった。見直すことは見直し、今後の展開に期待したい。	・縄文プロジェクトについては、市民に縄文を知ってもらうことに力を入れ、学術的なこともきちんと伝えていきたい。
開催回数	1	
参加延べ人数	13	
関連市民団体等名称	・意見交換する場合は必要であり、それぞれの情報を広く伝えられるよう情報発信の工夫をしてほしい。	・皆さんと意識共有ができたのは成果である。今後も情報発信を図っていきたい。
開催回数		
参加延べ人数		
関連市民団体等名称		
開催回数		
参加延べ人数		